

発行：平成26年3月

芋川砂防フィールドミュージアム実行委員会  
国土交通省北陸地方整備局湯沢砂防事務所

# 芋川砂防 フィールドミュージアム かわら版

第7号

新潟県中越地震により大規模土砂災害が発生した芋川流域での経験を将来につなぐ活動についての情報を発信しています。

## 取り組みの概要

### ◆「芋川砂防フィールドミュージアム」

コンセプト（ねらい）は**記憶継承・地域振興・防災力向上**

様々な砂防施設がある芋川流域を「砂防の野外博物館」として災害教訓を伝承し、防災学習やにぎわいの場にしようという取り組みが「芋川砂防フィールドミュージアム」です。



### ◆平成25年度の活動

実行委員会と作業部会を開いて、活動や整備について考えながら、ミュージアムづくりを進めています。

今年度は、砂防講習会、「やまこし復興交流館おらたる」のオープニング・つなごう山古志の心展・「長岡震災アーカイブセンターきおくみらい」での情報提供などを行ってきました。

10月に開催された砂防講習会は、昨年度に続く2回目で、募集エリアを広げて一般や学生の方々にも参加いただき、座学と現地講習を行いました。芋川下流にある魚沼市竜光集落の方から、砂防工事が進んでいる上流の様子がわかり、上流の人にもお会いできてよかったとの感想をいただいたことは、これからの取り組みを考えるヒントとなりました。

行政区域が違っていても、川でつながっている、上流・下流の人が互いに会話ができる、それは安全安心なくらしにとっても、地域振興にとっても役立つことと考えられます。

秋にオープンした「おらたる」は、砂防フィールドミュージアムでは情報拠点と位置付け、出展も行っています。訪れる人のニーズに合わせて、わかりやすい情報を提供できるよう、雪が融ける季節に向けて準備も進めています。

### ◆第2回作業部会

去る2月27日、山古志支所大会議室において、平成25年度第2回作業部会を開催しました。

まず、今年度の取り組みのまとめを行った後、震災から10年をむかえる来年度とそれ以降に向け、地すべり跡地の活用や、楽しんで取り組める自主防災活動の可能性などを検討しました。

第2回作業部会開催状況



# 芋川砂防フィールドミュージアム

案内  
マップ

芋川流域は、新潟県中越地震による土砂災害跡地と砂防施設を集中的に見ることができ、人々の想いや物語に触れることのできる砂防フィールドミュージアムです。



- ① 下之沢(梶金地区)の地すべり対策★  
川の流れて山すそが侵食されて地すべりが動くことを防ぐ、斜面対策と深固工。
- ② 神沢川砂防えん堤  
土砂をつめた田圃を並べた、セル式砂防えん堤。東竹沢の地すべり土砂も活用。
- ③ 十二平砂防えん堤  
芋川本川では最下流に位置する、コンクリートの砂防えん堤。
- ④ 東竹沢第1号・第2号砂防えん堤★  
木籠集落を水没させた地すべりを抑えこむ、2段になった砂防えん堤。
- ⑤ 楢木砂防えん堤と流路工  
牛倉の斜面がくずれ、土砂に埋まった本川300m区間を整備した。
- ⑥ 南平砂防えん堤  
地すべりの山すそをおさえ、不安定な土砂の流出を防ぐ、セル式砂防えん堤。
- ⑦ 寺野地区の河道閉塞と地すべり跡地★  
地すべり跡地は対策工で丈夫になり、夏には道路の高架橋から眺める緑が鮮やか。
- ⑧ 東川砂防えん堤  
羽黒トンネルを通る県道を守るため、短期に工事ができるブロック式で造られた。
- ⑨ 電光遊砂地★  
芋川上流からの土砂流出に備え、電光集落を守る大型の砂防施設。



- ★ やまこし復興交流館おらたる  
震災の経験と山の暮らしを伝え、地域復興や交流の拠点となる施設として平成25年秋に開館。
- ★ 山古志闘牛場  
中越地震2年後には国指定の重要無形民俗文化財、牛の角突きが再開された。
- ★ 天空の郷  
谷底にあった楢木集落と池谷集落の一部が、高台の旧池谷小学校跡地に移転した。
- ★ 郷見庵  
木籠住民と来訪者の交流施設で、1階は直売所、2階は中越地震の写真などを展示した資料館。
- ★ 中山隧道  
芋川流域の東の玄関口。昭和8年から16年をかけて掘られた、日本最長の手掘りトンネル。

国土交通省北陸地方整備局湯沢砂防事務所 平成25年度作成

## ★視察団体や観光客が増えています

山古志支所の記録によると、職員やボランティアガイドさん達が案内した観光客や行政視察団体などの数が、平成25年度は昨年より人数にして2割以上増加しています。この増加は、特に震災9年の「おらたる」オープン以降に見られます。

闘牛大会の入場者も震災後に山古志で復活してから最大となり、年間15,000人を超えました。

「おらたる」では、積雪期の1月・2月でも一般客が訪れ、オープンから2月一杯までの入館者は8,000人となっています。

震災10年を迎える平成26年度には、さらに多くのお客様が訪れることは間違いありません。



上：山古志闘牛場  
下：「おらたる」2F



## ★観光ボランティアガイドさん…「伝えたいこと」は？

◆ 工事で山古志の景観が損なわれるなんていうのは違うと思う。自然の地には、木が生え、草が生え、土砂で赤くなっていたところがみんな緑に変わって行くというふうに私は説明しています。(星野吟二さん)

◆ 講習会に参加して、砂防事業なくして住める場所じゃないんだと改めて思いました。同じような条件のところから視察に見えてくださる方達もあり、随分と関心を持ってくださいます。

気持ちを穏やかに生活できる場所がふるさとなんだ、ということが一番伝えたいと思っています。(小川美英子さん)

◆ 地震後に、地域でまとまっていて、助け合うってところは頼もしかったんですね。視察などで訪れる自治会の会長さんのグループですとか団体の方々に、そういうことをお話することがあります。(関静子さん)

◆ 山古志が全村避難した時、48時間以内で1200人が全員出られた。集落ごとにみんなそれぞれを確認できたことは幸運だった。それができることは一番大事なことじゃないかな。コミュニティだよ。(関正史さん)

--平成26年1~2月ヒアリングより--

## ★芋川流域の貴重な経験を伝え、明日につながるために 準備を進めています★

### ◆現地の説明看板

芋川砂防フィールドミュージアムでは、現地での説明拠点となる、東竹沢・寺野・電光・下之沢(梶金)で看板設置の準備を進めています。

東竹沢地すべり跡地は、昨秋までに土砂や工事用大型ブロックの撤去を行い、見学しやすくなりました。



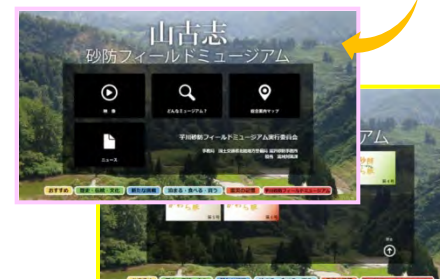
### ◆「おらたる」のタッチパネル

やまこし復興交流館おらたるの1階交流スペースに、タッチ式の大型モニター(表示装置)が置かれています。

芋川砂防フィールドミュージアムの情報も載せていただくことになりました。解説パネル・映像・地図等をご覧いただくことができます。

現地ガイドに役立つ情報、中越地震による土砂災害や砂防に関する情報が満載です。

現地に行けないときにも、映像等による情報をお役立てください。



### ◆ホームページ

芋川砂防フィールドミュージアムの情報を全国に向けて発信するためのホームページを準備中です。

パンフレットやガイド用の資料、この「かわら版」のバックナンバーなども、ホームページから取り出すことができるようになります。



## さまざまな手作りの防災活動や伝承活動が行われています（全国の事例）

各地でこんな取り組みが行われています。

### ● 駒ヶ岳あんべいいなチャーハン

秋田県仙北市田沢湖<sup>おほ</sup>の生保<sup>ない</sup>小学校では、子供たちが火山防災学習の一環として、地元特産のネマガリダケを使い、あんかけで駒ヶ岳の溶岩流を表現したチャーハンを考案。イベントで販売し地域振興の体験学習にも役立てています。



秋田魁新報10月28日版より

このチャーハンは、火山防災や地域学習を後輩たちに引き継ぐための教材としても注目されています。

### ● 地域の防災マップ作り

群馬県では市町村のモデル地区で、先祖からの言い伝えや体験から得た知識を共有し、行政からの危険箇所や避難に関する情報と合わせて役立て、自助・共助によって人命被害を防ぐため、専門家



の指導のもと、防災マップ作りと警戒避難のルール作りを行っています。

群馬県砂防課ホームページより

### ● 念仏講まんじゅう

多くの人命被害を出した昭和57年の長崎豪雨災害。長崎市山川河内地区にも土石流が発生しましたが、自主避難等により一人の負傷者も出ませんでした。

地区では江戸時代の土砂災害で33人が犠牲となり、以来、供養と災害を忘れないために、毎月14日にまんじゅう等を持ち回りで全戸に配る「念仏講まんじゅう」を継承してきました。

100年を超えて、記憶が生かされたのです。

NPO法人砂防広報センターホームページより

### ● 防災運動会

岐阜市の社会福祉法人では、地域の人々が日頃からの防災意識を高め、障がいを持っていても防災活動に取り組めることを知ってもらうため、団体・企業などの協力を得て、2007年から防災運動会を行っています。

プログラムの最後はバケツリレー。協力し合い、楽しく競技を終えます。

岐阜アソシアホームページより



## 湯沢砂防より

日差しに春を感じられる日が増えてきました。新年度もすぐそこまで来ています。平成26年度は震災から10年を迎える、節目の年です。

実行委員会では、芋川砂防フィールドミュージアムをステージとした取り組みが検討されています。それを受けて湯沢砂防事務所でも、東竹沢地すべり跡地をはじめとする砂防施設周辺を防災学習や交流活動のために安全に利用いただけるよう、仕組みや整備を進めています。

芋川流域のみなさまが一体となって自主防災や地域振興に取り組むため、ふさわしい場所になればと考えております。



◆ご不明な点がございましたらお気軽にお問合せください◆



★事務局は湯沢砂防事務所が担当しています。  
国土交通省 北陸地方整備局 湯沢砂防事務所  
〒949-6102 南魚沼郡湯沢町大字神立23  
流域対策課 Tel : 025-784-2926